

ど の し た 淵

【令和5年度スタート】

3月19日（日）総会により、新役員・年間行事・予算が決定され、令和5年度がスタートしました。

コロナの影響も緩やかではありましたが緩和されつつある中、様々な活動を再興していかなければならないと考えます。9日は花見を3年ぶりに開催いたしました。近くにおいても日頃なかなか膝附合わすことなかった数年間でした。久しぶりの花見で語らい懇談できたでしょうか。

◇新役員

・会長	三腰 善行
・副会長（会計）	帖佐 勝彦
・班長（1班）	松下 千早
（2班）	三腰 克己
（3班）	三腰 栄治
（4班）	大平 龍三
・体育係	三腰 史宏
・監事	川平 光広 大平 剛司
・代議員	三腰 克己 帖佐 勝彦 三腰 栄治
・地域支え合い推進員	松下 京子
・健康づくり推進員	三腰 都

※令和5年度より班数が4班になります。これは旧1班の戸数が3戸になったことに伴い、旧2班と合併し1班となり、以下繰り上がったの班設定になったからです。これにより、班戸数は1班8戸・2班9戸・3班6戸・4班6戸の合計29戸になりました。

高齢化の進展、戸数減は否めませんが、だからこそ共助の精神で一致団結して地域の融和を紡いでいきましよう。

新年度のテーマは『**気づき・動き・紡ぐ**』です。

発行責任者

高峯公民会長
三 腰 善 行
090-1089-9432
令和5年4月20日発行



【令和5年度行事計画】

4月9日（日）	花見
4月23日（日）	ボランティア活動
5月 区集会所除草（高峯当番）	
5月28日（日）	町内一斉防災訓練・点検
7月2日（日）	五月供養
7月16日（日）	公民館及び周辺清掃 ボランティア活動
9月17日（日）	町道・農道払い グラウンドゴルフ・懇親会
10月 田の神講（当番3班）	
10月15日（日）	ボランティア活動
11月21日（火）	大山祇神社祭り （当番・3／4班）
12月 公民館及び周辺清掃	
3月 監査・総会・引継ぎ	
役員会随時（計画8・10・2月）	

4月23日（日）のボランティア活動は、高規格道路インター周辺の除草を行います。ゴルフセンターウイークを前に、インター利用者気持ちよく往来いただくためです。午前8時にインター横空き地に御集合ください。人数次第では1時間程度で終わらないかな〜と思っています。

多くの皆様の参加よろしくお願いいたします。

新年度のスローガンは『**語り合い・共生協働による村づくり**』です。

だかね寺小屋 【西郷隆盛の人生訓】

小説家 童門冬二が著した「西郷隆盛の人生訓」の中から、印象に残った文面を抜粋紹介します。

◇自己啓発は自分との戦いだ

現代は生涯学習の時代だと言われる。人間は死ぬまで学習して、自己啓発をすべきだという。西郷はこの点に触れて、自己啓発は、自分との戦いによって行われると喝破した。そして、己のどういふところに克たなければいけないか、つまり、自分に克ったあとに描く自己の理想像を、「意なし、必なし、固なし、我なし」と言っている。

西郷が、克己の究極の目標として置いた「意なし、必なし、固なし、我なし」は、『論語』にある言葉だ。自信過剰ですべて主観的に物事を眺め、自分の価値観で決断し、事を決め付けるという態度を捨てろということである。つまり、無理押しをしないで、ものにこだわらず、人の意見もよく聴く、すなわち自我に固執しないという態度をいう。西郷は、事業を行う人は、たいてい十に七、八まではよく成し得るが、残りの二つをしくじってしまう。それは、初めのころは、自分を抑え、ほかに対しても謙虚に振る舞っているが、事業がしだいにうまくいくにつれて思い上がる。やがて、自分の成し遂げた功績を誇大に考えて、俺は完全だと思ひ込むから、そいう過ちを犯すのだ、と言っている。

【泊野村映画館会館】

映像機器を寄贈された北野春義さんが3月25日御帰省されていたので、林業集会所において泊野村映画館の開館セレモニーと試写会を行いました。

春義さんからは、2年前の台風時に避難所で時間を持て余し、退屈そうにされている避難者の様子を見て、娯楽設備の寄贈に至った思いが語られました。故郷の現状に思いを馳せられての御厚意に深く感謝申し上げます。

今後、寄贈者の思いに答えるべく利活用に努めなければなりません。映画や娯楽・アニメ等沢山のDVDの寄贈もあるので、子どもから大人まで楽しめます。各種団体でもご利用ください。利用の際は館長から集会所を借用の上、機材の利用については私まで連絡下さい。



【3年振りに花見を開催】

しおけ作りの手間を軽減するため、初めての試みとして、お弁当の斡旋をするともに、BBQを準備してみました。居住者全員が参加して賑やかな花見をイメージするところですが、結果としては弁当注文をした人数のみの参加にとどまりました。公民会全員が集い、てこちゃんせんで賑やかだった花見が懐かしいです。

コロナ禍であらゆる行事が中止になっています。一旦中止すると再始動するには相当のエネルギーを要します。無ければ無いで済んでいいかもしれませんが、何も無い地域にエネルギーは感じないし、魅力は見いだせないのではないのでしょうか。

総会で年間計画に組まれた行事は、基本的には全員参加の取組として承認されたものと考えます。年間スケジュールに入れ、出席する方向で調整しましょう。

冒頭申し上げましたが、戸数が少なくなり、高齢化が進展すればするほど共生協働の取り組みが重要になってきます。皆で協力して紡ぐ地域の創造を目指しましょう。

町内のどこの公民会においても抱える課題は共通するものがあります。今まで通りでなければいけないのか、現状に併せ無理なく紡いでいく方法を模索していかなければならないのでは！



【ふるさと回顧録『泊野に生きて』】

区活性化委員会の取り組みで、泊野言葉集『言魂手箱』を編集しました。この言葉集のベースにあるのは、関西きさらし会員の皆さんがふるさとを懐かしみ、遺しておきたい泊野の言葉を集めた冊子『ひなたぼっこ』があります。この取組の中心メンバーである久木野正志さんが故郷の思い出を紡いでくださいましたのでシリーズで紹介します。

『泊野に生きて』 大阪府八尾市 久木野正志
2018年に皆様の御協力で作成した『遺したい泊野ことば』のベースとなったふるさとへの思いについて、私が泊野に生まれてから現在までを記憶のまま記しました。

子どもの頃、近所のお兄ちゃんに教えられ、育てられた遊びや決まり事を四季ごとに。義務教育6年間。高校3年間。そして大阪に就職し、現在までのおよそ70年。私の中の「泊野」です。
私は昭和25(1950)年7月に泊野6363番地で生をもらいました。泊野小学校、紫陽中学校、宮之城高校卒業。昭和44年熊本市の大学校同45年大阪市に就職。平成23年定年退職。余談ですが、小学校同級生(40名弱)に私と同じ誕生日が3人もおりました。

高校卒業まで、私が泊野で周囲の人から守られ、教えられた18年を振り返ります。

次号から季節ごとに綴られた泊野での生活・遊びや風景について連載いたします。

お楽しみに!!